

1-1. 上位計画・関連計画との位置づけ (仮称) 柿田川ビジターセンター整備基本構想を策定するにあたり、上位計画や関連計画、参考計画を整理する。

本構想の上位計画、関連計画、参考計画を次に整理します。

■上位計画

第4次清水町総合計画後期基本計画 (平成28年)

清水町の将来都市像と基本目標を整理します。

清水町の将来都市像

「笑顔があふれここよく住み続けたいまち・清水町」

「将来都市像」を実現するための6つの基本目標

- ・基本目標1 人がふれあい快適に住みよいまち
- ・基本目標2 安全で安心して暮らせるまち
- ・基本目標3 元気な子どもの声が聞こえるまち
- ・基本目標4 健やかで生きがいを持てるまち
- ・基本目標5 自然と共生し環境にやさしいまち
- ・基本目標6 産業の活力に満ちたにぎわいのあるまち

基本目標を実現するための施策のうち、本構想に関連の深い項目を次に挙げます。

1. 快適で地域の特色が生かされたまち
(「基本目標1」より)

誰もが快適さを感じ、住みやすく、ずっと住み続けたいと思えるまちであるよう、(中略)公園や景観の整備など、快適な生活環境の整備を推進します。

2. 子育てしやすいまち
(「基本目標3」より)

子育て中の親子が安心して遊べる施設の環境づくりと相談支援を充実し、関係機関との連携を強化します。

3. 自然とともに生きるまち
(「基本目標5」より)

柿田川などの豊かな自然環境をいつまでも絶やさぬよう、柿田川やその周辺の自然環境の保護・保全に努めます。(中略)さらに、公園の整備や環境教室など、自然とふれあえる環境の充実を図り、自然とともに生きるまちの実現にも取り組んでいきます。

清水町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略 (平成27年)

清水町の将来の町の姿と基本目標を整理します。

将来の町の姿

「くらし満足度日本一を目指す」

「将来の町の姿」を実現するための4つの基本目標

- ・基本目標1 産業振興により雇用を増やし、安心して働けるまちをつくる
- ・基本目標2 清水町への新しい人の流れをつくる
- ・基本目標3 若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる
- ・基本目標4 時代に合った、住み続けたいまち清水町をつくり、安心なくらしを守る

基本目標を実現するための施策のうち、本構想に関連の深い項目を次に挙げます。

1. 観光の振興 (「基本目標2」より)

清水町を特徴づける自然環境として富士山のめぐみ柿田川湧水を観光の軸として、他の地域にある自然やジオパークと組み合わせた仕掛けにより、交流人口の拡大を図る。

2. 特色ある教育の充実 (「基本目標4」より)

柿田川の自然環境を学ぶことによって地域の成り立ち、誇りを身に着け将来定住化に向けた意識的な教育の機会になる。清水町の特色を教育の中に取り込むことで地域に対するこだわりや愛着、そこから育まれるものを強化するとともに、他にはない環境を価値として認識できる教育を目指す。

■関連計画

第2次清水町都市計画マスタープラン (平成25年)

清水町の都市づくりのテーマと目標を整理します。

清水町の都市づくりのテーマ

「水と緑とともにここよく住み続けたいまち・清水町」

「都市づくりのテーマ」に沿った都市づくりを進めるための都市づくりの目標

- ・町全体のバランスの取れた土地利用
- ・自然と調和・共生する
- ・災害に強く快適な生活環境の整備
- ・個性や活力の創出
- ・町民と共に創る

目標とする将来都市ビジョンを踏まえた基本方針のうち、本構想に関連の深い項目を次に挙げます。

1. 水と緑の方針 - 柿田川の保全

本町の自然の豊かさを象徴する、柿田川湧水群及び周辺の樹林地については、市街地の中のオアシスとして、湧水と植物、魚類、昆虫、鳥類などの豊かな動植物の生息する自然環境の保全を図る。また、日本有数の湧水量を体感できる、湧き間を見る施設の維持・保全を図り、自然の素晴らしさや大切さを学ぶ場とする。

2. 景観づくりの方針 - 河川景観の保全・修景

湧き間や水中の景観、緑豊かな水辺景観など多様な自然景観の保全を図るとともに、多自然型の護岸整備やその他修景整備を推進し、美しい河川景観の形成を図る。

■参考計画

柿田川周辺地区まちづくり(水の駅) 構想 (平成16年)

柿田川の自然保護と地区の発展を同時に見据えた総合的なまちづくり構想を次に整理します。

まちづくりの基本理念

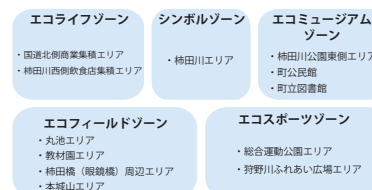
「柿田川エコミュージアムタウンの創造」

柿田川の自然環境の保全を常に柱にすえながら、自然と都市機能が共生する健康なまちーエコミュージアムタウンを創造する。

まちづくりの戦略

「既存施設・環境の最大限の活用と緊密な連携に基づく、ネットワーク型による施設・環境整備の推進」

ゾーン構成の考え方



伊豆半島ジオパーク構想指針書 (平成23年 静岡県)

柿田川公園は、特異な成り立ちと地学的特性から「伊豆ジオパーク」として世界ジオパーク認定を目指すエリアに設定されています。柿田川に関する記述を次に整理します。

1. 伊豆ジオパークにおける柿田川エリア

三島溶岩の湧水の中で最大のものは三島駅南西方の清水町内にあり、そこからわき出た大量の水は柿田川の渓谷を形づくって1キロメートルあまりも流れ、狩野川と合流している。この湧水と渓谷全体を柿田川ジオサイトとする

2. 柿田川公園のジオパーク的価値

「A」(世界ジオパーク級に準ずる価値)

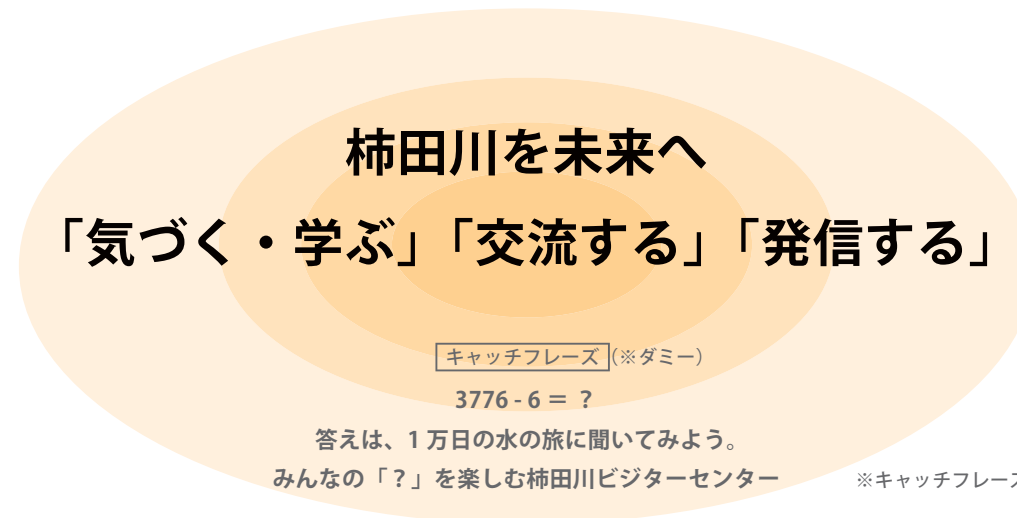
1-2. 基本理念

上位計画・関連計画との位置付けに基づき、(仮称) 柿田川ビジターセンター整備基本構想の基本理念を策定する。

2017.11.21

改 2017.11.28

改 2017.12.06



柿田川を未来へ
「気づく・学ぶ」「交流する」「発信する」

キャッチフレーズ (※ダミー)
3776 - 6 = ?

答えは、1万日の水の旅に聞いてみよう。
みんなの「？」を楽しむ柿田川ビジターセンター

※キャッチフレーズ案は別紙一覧を参照

柿田川は清水町の魅力を物語る地域固有の資源であるとともに、日本を代表する湧水群のひとつでもあり、万人にとって未来に継承すべき宝といえる存在です。

現状では、清水町民や近隣地域住民からの親しみはかつてに比べて低い傾向にあり、折角の価値ある地域資源が共有されていない状態にあります。

こうした状態に対し、より多くの人々と柿田川の接点を増やし、貴重な自然環境として清水町の人々と密接な関わりを持ってきた地域資源としての理解を深め、未来に向けた保全意識の啓発や活動につなげていく取組が期待されます。

柿田川の価値への認知と理解、そして保護・保全へとつながる人々の関心・実践を導く有効な方法として「気づく→学ぶ→行動する」という興味・関心の喚起から自律的学びや行動へのつながりを持たせる拠点が必要とされています。

さらに、柿田川公園周辺がもつ人々の憩いと交流の場として機能してきた状況は、より多くの人々に柿田川の価値を伝える効果を期待できる視点からさらに強化していくことが求められるものです。

こうした考え方のもと、「気づく・学ぶ」「交流する」「発信する」を基本理念に、柿田川を未来へつなぐため、清水町内外の人々の交流を育み地域固有の魅力への愛着と共感を広げる環境保護・保全学習＋交流拠点として(仮称) 柿田川ビジターセンターの整備を進めます。

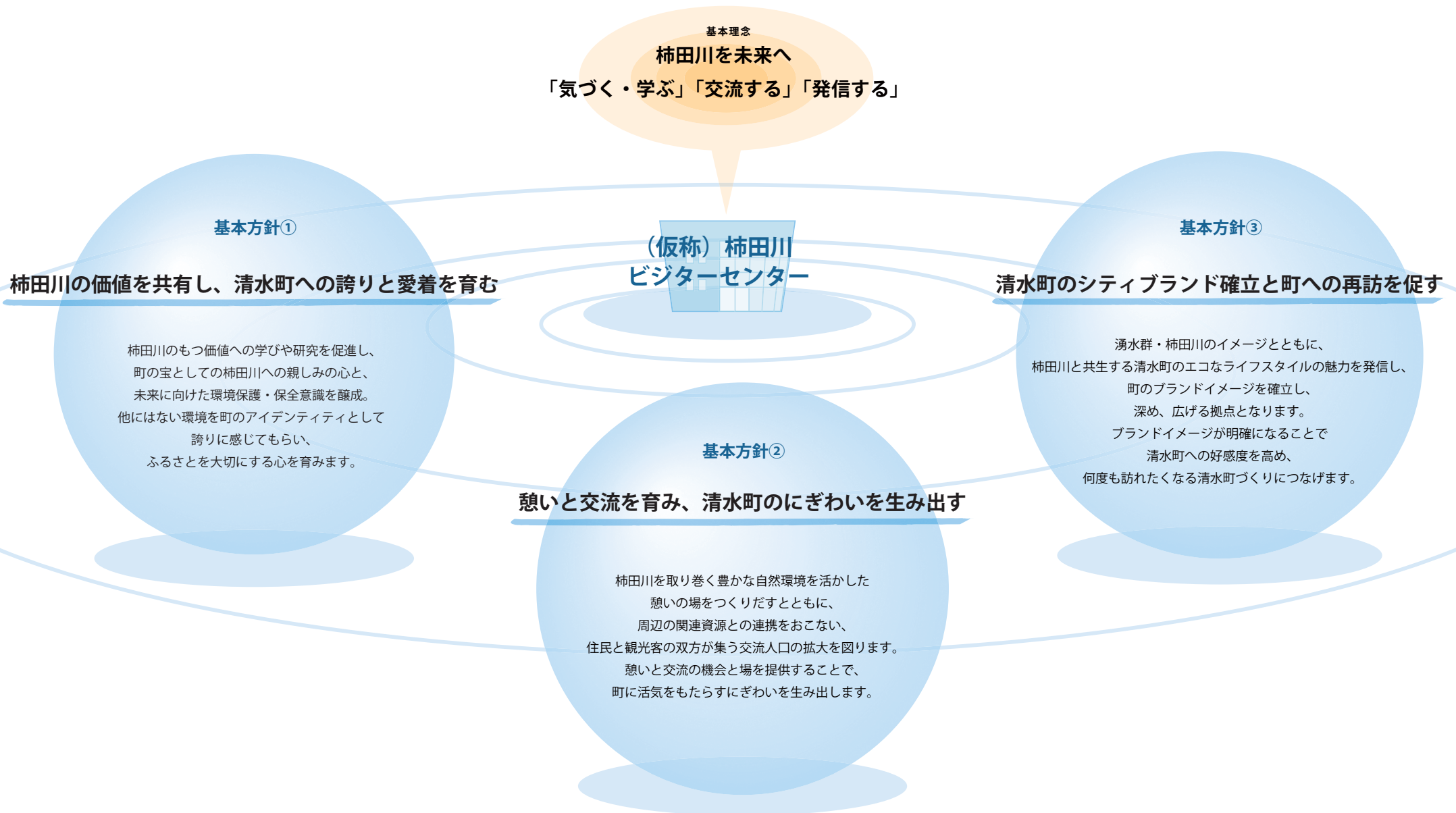
1-4. 基本方針 基本理念に基づき、(仮称) 柿田川ビジターセンターの整備の基本方針を策定する。

2017.11.21

改 2017.11.28

改 2017.12.06

■基本理念を実現するために、次の3つをビジターセンターの基本方針とします。



1-4. ビジターセンターの機能 ビジターセンターとして求められる施設の機能等を整理する。

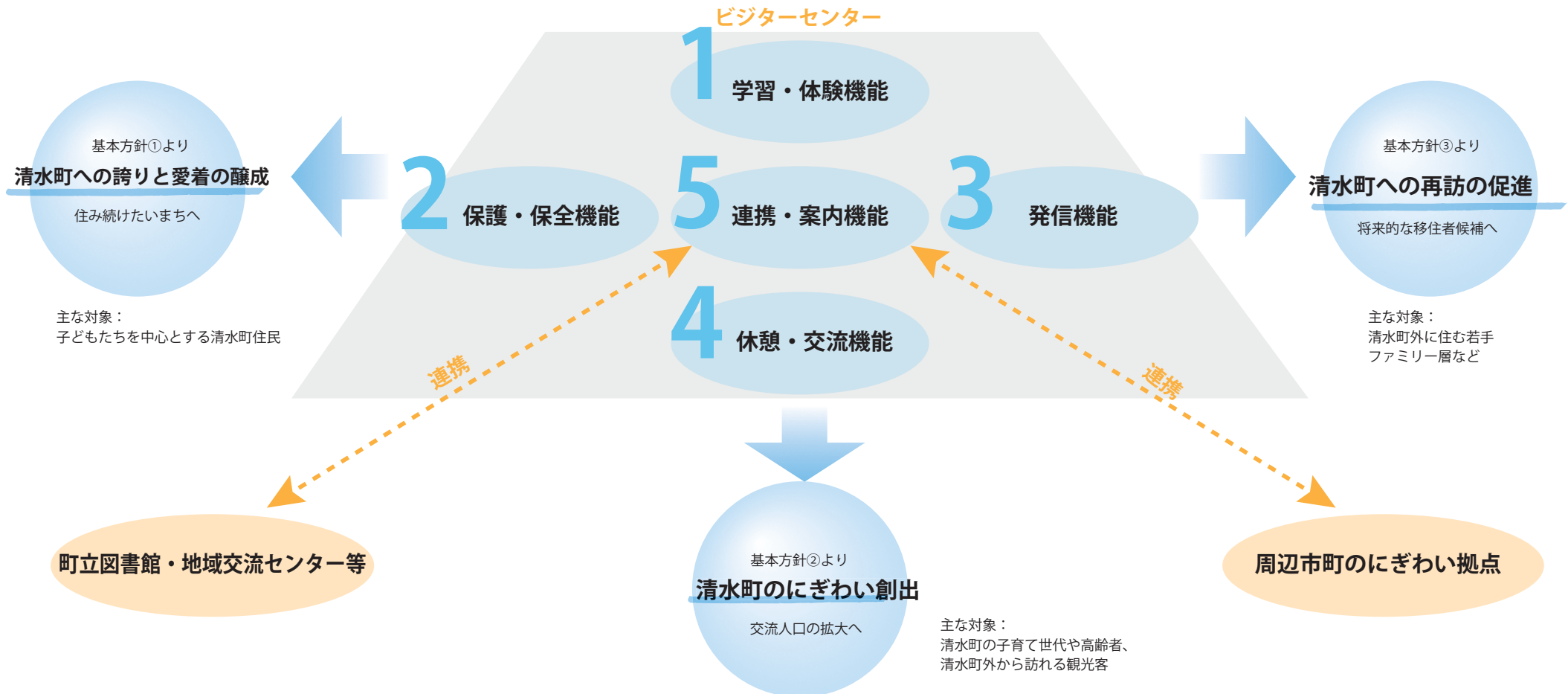
2017.11.21

改 2017.11.28

改 2017.12.06

■ビジターセンターに必要な機能を次の5つにわけて整理します。

- 1 学習・体験機能 …主に地域の子どもたちに対し、柿田川を題材とした体験的な学びを提供します。
- 2 保護・保全機能 …地域の子どもたちや住民団体等による保護・保全活動等の拠点を提供します。
- 3 発信機能 …清水町のブランドイメージとして柿田川の魅力を地域の内外へと発信します。
- 4 休憩・交流機能 …誰もが気軽に立ち寄ることができ、人と人のふれあいが生まれる空間と、多様なイベントを提供します。
- 5 連携・案内機能 …周辺の関連資産と連携し、柿田川への導入的な位置づけを果たすとともに周辺地域へと案内します。



2-1. 展示の基本的な考え方

基本方針に基づき、展示の基本的な考え方を整理する

2017.11.21

改 2017.11.28

改 2017.12.06

■ビジターセンターの5つの機能を満たすとともに、次の3つのことを重視します。

① 展示の内容

柿田川の価値がわかり、町や人のつながりを大切にする展示

柿田川そのものが持つ自然的価値をきちんと伝え、町の宝としての意識や環境保護・保全の意識を醸成するとともに、“柿田川と清水町とのつながり”も1つの価値として捉えます。柿田川とともに歩んできた町の歴史や、柿田川と共生する町のライフスタイルを丁寧にひも解くことで、柿田川を清水町のアイデンティティとして確立し、地域の内外へと発信します。

② 展示の利用

多様な利用者の用途に対応でき、学習・交流効果の高い展示

自ら気づき、学ぶプロセスを重視し、詰め込みすぎない“余白”のある展示で、いつも新鮮な情報・内容で構成される更新性の高い展示とします。また、柿田川に親しみ、守る地域住民の主体的な活動とも連動する展示で、清水町外から訪れた人々との接点を大切にします。誰もが自由に憩うことのできる空間も確保して、多様な過ごし方が可能で、利用者に育まれる展示空間をめざします。

③ 展示の連携

3つの段階にわたる連携機関とコラボレーションする展示

周辺の関連資源と連携することにより、地域内外の人びとを柿田川へと導きます。さらに、ビジターセンターに訪れた人を周辺のフィールドへと導き多面的な体験を促すことで、柿田川・清水町への理解や共感を深めます。関連資源は以下3つの段階で捉え、来館者の特性や目的に応じた回遊を促します。

段階1：湧水の道など柿田川公園内での回遊

段階2：町立図書館・地域交流センターを中心とした
清水町内の各関連拠点

段階3：沼津市、三島市、長泉町など清水町外の関連拠点や
周辺の富士山関連拠点

2-2. 展示構成

展示の基本的な考え方に基づき、展示テーマ及び展示シナリオを整理する。

2017.11.21
改 2017.11.28
改 2017.12.06

■ 展示テーマ

みんなで作る 命の水の宝箱・柿田川

清水町の人々をはじめとする万人の宝・柿田川は、清く豊富な湧水として、多様な命を育む水環境として、多大な貴重性を秘めています。こうした柿田川の価値と魅力をビジターセンターを訪れたすべての人に伝えるとともに、それぞれが紡ぐ柿田川とのかかわりを積極的に具体化していく展示を構成します。柿田川の魅力をみんなで共有し、未来に受け継ぐ 宝箱 として展示空間を位置づけます。

■ 展示シナリオ

エントランスゾーン

日本を代表する湧水群・柿田川の概要とその特色を紹介。柿田川の魅力への気づきをもたらします

自然ゾーン

ジオサイトとしての柿田川の地質学的な特長や、富士山頂から届く優れた水質、水量を体感してもらい、価値への理解をもたらします

柿田川とエコライフゾーン

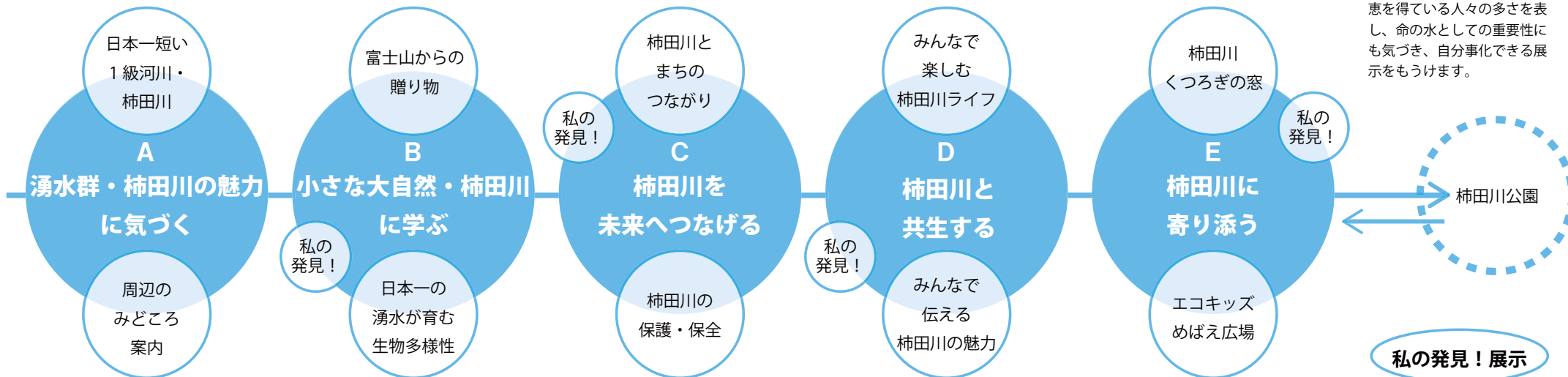
泉頭城の堀としての利用の歴史・文化や近年の工業用水としての利用など、柿田川とまちの歩みを紹介します

ふれあいゾーン

柿田川公園を臨む寛ぎ空間で思い思いに過ごしてもらいながら、地域ゆかりの方々の解説などによる地域内外の人々の交流を育みます。

柿田川の恩恵

飲料水などの面で柿田川の恩恵を得ている人々の多さを表し、命の水としての重要性にも気づき、自分事化できる展示をもうけます。



私の発見！展示

利用者一人ひとりで異なる気づき、学んだ“発見”を紹介する展示を各ゾーンに設置。利用者が発見した展示で展示空間が「育まれていく」仕掛けともなります。

連携・案内

学習・体験 / 保護・保全 / 発信

休憩・交流